

ベツチュー枢機卿に5年6カ月の刑が確定

2023年12月16日、ヴァチカンの法廷で、ベツチュー前枢機卿(75歳)を裁く公判が開かれた。ヴァチカンにおける彼の犯罪については以前に公表されているが、その裁判は29カ月かかり、口頭弁論は86回も行われたのである。そしてこの日、最終公判が開かれ、ヴァチカン裁判所のジュゼッペ・ピンニャ・トーネ裁判長の下で4時間半にわたる審議が行われた。その時間、検察側も弁護側も口角泡を飛ばし喧々諤々の討議を行った。最終的には、裁判長はベツチュー枢機卿に対して5年6カ月の懲役刑を宣告した。さらに、公金横領罪、詐欺罪、聖務停止のほか、8万ユーロの罰金が課せられた。多くの人々、とりわけ無罪を信じていたベツチューの弁護団はこの判定に衝撃を受けた。フランチェスコ法王は裁判の結果に満足し、枢機卿たちの権力の弱体化を喜んでいるようだ。ヴァチカン内の財政スキャンダルは、今まで長い間、公にされることはなかった。歴史的に見れば、アンブロシウスの時代(紀元4世紀)にヴァチカンの金融スキャンダルがあったことが知られている。法王はヴァチカン内部のスキャンダルが、ヴァチカンの内部の自浄能力で解決したことに満足している。

法王は自分の墓を確保

フランチェスコ法王は旧年11月より12月にかけて体調を崩し、毎日曜日に行われるアンジェルスへの祈りの際に話もできない状態になった。そこで、代理人にアンジェルスの原稿を読ませることもあった。前法王ベネディクト16世(ラッツィンガー元枢機卿)に続いて、フランチェスコも法王を辞任するのではないかと噂が流れたが、法王は少し呼吸困難に陥っただけであった。現在、病状は回復して辞任の話は消えてしまった。法王にも辞任の気持ちは一切ないようだ。

法王は12月17日に満87歳を迎えた。17日の一般謁見の始まる前に、子供たちに囲まれた法王は、ケーキの上に据えられた87を示すシンボルの明かりを吹き消した。法王はこの機会に、すでに自分の墓を準備したことを明らかにした。その場所は、ローマのサンタマリア・マジョーレ教会の中だ。現法王は、法王に決まった直後にもこの教会を訪れ、感謝の祈りを捧げていた。なお、法王への祝電はイタリアのマッタレウラ大統領やジョルジャ・メローニ首相からも届いた。

同性愛者のカップルも教会で祝福を受けられる

翌12月18日、法王は、同性愛者のカップルも祝福を教会で受けられると公表した。法王は次のように述べた。「主はどれも非難しない。主は腕を広げて歓迎しているのです。教会の扉は閉じていない。教会の中には誰でも席があるのです」と。

もともと、結婚による祝福と同性愛者が教会で祝福を受けることとの間には大きな相違があり、両者の混同は避けなければならない。それほどまでに結婚に際しての祝福の儀式は絶対的なものなので、この変化は大変なものだったのだ。3年前の2021年2月22日までは、教理上は完全に「ノー」であった。ルイス・ラグリア枢機卿によれば、同性愛者への祝福は絶対に排除されるべきだと言っていた。しかし、北ヨーロッパでは様子が違っていた。2022年からLGBTQの人たちにも神の祝福を与えてきた。ドイツでの司教会議では、司教たちに向けて、1日も早く教会をLGBTQの人たちに解放し、祝福を与えることを実施しようと訴えているのである。

子供たちの質問に答える

フランチェスコ法王は体調が良くなかった2023年11月初旬の時期でも、子供たちの前に現れ、様々な質問に答えていた。11月6日には、世界84カ国から7,500人の子供たちが集まった。日常的に報道される戦争に関する出来事の質問が多かった。シリアのアントラニック少年は、なぜ戦争の時、罪のない子供たちが殺されるのか、またさらに大人はなぜ子供を守らないのかと問いかけた。法王は一瞬絶句したものの、「まず亡くなった子供たちの冥福を皆で祈りましょう」と提案した。そして、「戦争の時、なぜ子供たちが殺されるのですか」と同じ言葉を3度繰り返したのだ。前法王のゲンスヴァイン秘書:現法王と面会

ゲンスヴァインは、前法王ベネディクト16世の秘書として、また名誉法王の世話役として、2022年12月31日に亡くなるまで側に仕えていた。2023年12月31日の一般謁見に前法王の1周忌が開かれ、元秘書だったゲンスヴァインも招待され、その謁見に出席した。前法王の死後、ゲンスヴァインはヴァチカンに残って仕事を続けると思われたが、現法王によって、ドイツのフライブルクに大司教として派遣された。しかし、前法王が考えていた役職は与えられず、ヴァチカンに対しては何の権限もない一介の大司教になっただけである。彼は大司教の役割を大過なくこなしているものの、ヴァチカンに対して有効な働きができないことを悩んでおり、早くヴァチカンでの要職を与えてくれるように望んでいる。

ズッピ枢機卿の記者会見

最近、ウクライナ紛争の調停役に任命されたズッピ枢機卿の記者会見が行われた。その一問一答より。

(問) ご両親についてお聞かせください。

(答) 私の父は信仰深い人でした。子供には、ヨハネ、ルカ、マルコと福音史家の名前をつけ、私はマテオ(マタイ)と名付けられました。末っ子にはもう福音史家の名前もなく、パオロと名付けました。

(問) お母様はコンフォロニエリ枢機卿の姪になるのですね。

(答) 私たち子供は小さい時、ヴァチカンに行った時にはコンフォロニエリ枢機卿の前に跪き、彼の指輪に接吻したものでした。私はカソリックの教えに従いました。1971年、私は22歳の時でしたが、聖エジディオ共同体の創始者アンドレア・リッカルドと出会い、これに入会しました。昔は100メートルも歩けば、そこに神父がいたものです。今、若者は12、3歳の頃に堅信式をすますと、多くが教会から離れてしまいます。

(問) 法王はあなたをウクライナ紛争の調停役に任命しましたが…。

(答) 私はとにかく動かねばならないと思いました。そこで、キエウ、モスクワ、またアメリカ、中国を訪問しました。紛争に直接・間接に関係ある人々と出会い、意見を交換しました。皆平和を望んでいるのです。平和を獲得するチャンスは逃してはなりません。アフリカのモザンビークの平和活動が評価されますが、それとは事情が違うのです。戦争の原因が100あれば、解決方法も100あると思います。私たちはいつもイエスと一緒にいます。イエスがいれば、全てが平和的に治まるのです。私たちは罪を負っていますが、神の子であり、相互に愛の心を抱いているのです。